

ひとり親の皆さまへ

住宅支援資金のご案内

大分県では、「母子・父子自立支援プログラム」の策定を受け、自立に向けて意欲的に取り組むひとり親家庭の親の方を対象に、償還免除付で、家賃の支払いを支援する「住宅支援資金」の貸付を行っています。

対象となる方

以下の①と②の両方に該当する方

- ① 大分県内にお住まいの児童扶養手当を受給している方または所得が児童扶養手当支給水準の方
- ② 令和4年10月以降に、「母子・父子自立支援プログラム」の策定を受けている方

貸付額等について

貸付額：月額上限40,000円(入居している住宅の家賃実費)

貸付期間：最大12ヶ月

利息：無利子 ※住居確保給付金を利用している場合は、家賃の差額となります。



申し込みについて

- ① 住宅支援資金貸付申請書 ② 個人情報取扱同意書 ③ 誓約書
- ④ 住民票(本籍地世帯全員の記載があるもの) ⑤ 母子・父子自立支援プログラム策定の写し
- ⑥ 児童扶養手当証書の写し(※受給していない場合 戸籍謄本・所得課税証明書が必要)
- ⑦ 入居住宅の賃貸契約書の写し(1ヶ月の家賃額及び契約者氏名が確認できるもの)
- ⑧ 住居確保給付金等支給決定通知書の写し(受給している場合のみ)
- ⑨ 直近3ヶ月分の給与明細・雇用契約書の写し等



返還免除について

下記の①又は②に該当する場合、償還を一括して免除します。

- ① 現に就業をしていない方が、貸付から1年以内に就職をし、1年間就労を継続したとき
- ② 現に就業している方が、貸付から1年以内に母子・父子自立支援プログラム策定時より高い所得が見込まれる転職等をし、1年間就労継続をしたとき

お問い合わせ

「母子・父子自立支援プログラム」の策定について

大分県母子家庭等就業・自立支援センター
(大分市大津町2-1-41)

TEL:097-552-3313

MAIL:info@oita-boshikafu.jp

「住宅支援資金貸付」の申請書や手続きについて

社会福祉法人大分県社会福祉協議会
(大分市大津町2-1-41)

TEL:097-515-7771

子ども食堂応援自動販売機設置先企業・施設(敬称略)

・大分銀行日岡支店
・株式会社アイビック

・株式会社平和建設
・株式会社小野明組

・株式会社カーライフ大分
※令和4年9月～令和5年3月末現在

ご協力
ありがとうございます



あなたの善意を SDGSに向けた活動に

大分県社協は大分県の地域福祉を推進する団体として、『生活する力』、『助けあう力』、『助けあいを支援する力』といった“住民力”を高める活動を進めています。

- ★ 留学生や学生を含む生活に困っている方々や子ども食堂、児童養護施設を卒業して間もない子どもたちなどに食料品等を提供
- ★ 県内に100か所以上ある子ども食堂への設立支援や運営継続のためのお手伝い
- ★ 近年頻発している災害や大規模災害への備えとして、災害対応力向上に向けた講座の開催 など

本会では賛助会員制度を設け、皆さまと協働し、会費によってこのような福祉活動を支援しています。ぜひ賛助会員として、皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。



年会費 個人会員 一口…… 3,000円
団体・法人会員 一口…… 10,000円

※ご意思により何口でも結構です。

詳しくは総務・企画情報部までお問合せください。

電話:097-558-0300

賛助会員 新規会員募集中!

地域福祉の充実を目指し活動しています



詳しくはこちら▶



大分社会福祉

だいふく No.198

発行/令和5年3月

発行・編集/社会福祉法人大分県社会福祉協議会

〒870-0907 大分市大津町2-1-41 TEL (097)558-0300 FAX (097)558-1635 E-X-JL info@oitakensyakyo.jp

だいふく

大分社会福祉

No.198

2023.3



3年ぶりに開催された全国健康福祉祭(ねんりんピックかながわ2022)に参加

特集 外国人介護人材受入状況を調査しました



Instagram

やってます

facebook

ぜひ登録をお願いします

大分県社協

検索

http://www.oitakensyakyo.jp



Instagram



facebook

この広報誌は、共同募金の助成を受けて発行しています

- 大分県ボランティア・NPO推進大会
- 大分県災害ボランティア・福祉支援センター設立記念研修会
- 「介護って素晴らしい」フォトコンテスト
- 子ども食堂取材日記「子ども食堂 灯」
- あすびあ教室案内
- つながる・ひろがる善意の輪／善意銀行
- ひとり親の皆さんへ 住宅支援資金のご案内
- 賛助会員新規会員募集

外国人介護人材受入状況調査



令和4年12月から令和5年1月にかけて、「外国人介護人材受入状況調査」を実施しました。本調査は県内の介護サービス事業所1,408事業所を対象に、外国人介護スタッフの受入状況や意向を調査するとともに、事業に対する評価を受けることで、来年度事業の参考とさせていただくことを目的としています。

調査は503事業所からの回答がありました。この結果から、令和4年3月の入国制限緩和以降、県内事業所での受入れが進みつつある一方、外国人スタッフの定着支援が課題であることが分かりました。

貴事業所では現在、外国人介護スタッフを受入れていますか。

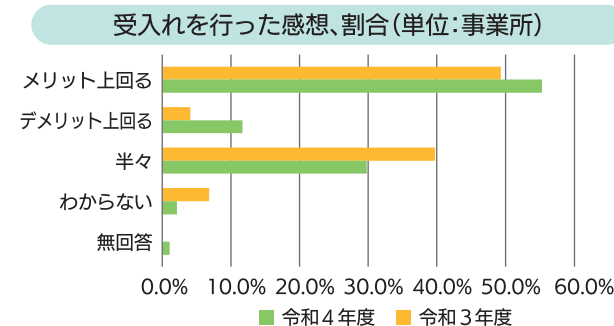
	令和4年度		令和3年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比
は い	94	19.1%	73	17.2%
いいえ	397	80.9%	351	82.8%
総 計	491	100%	424	100%

外国人を受入れている事業所の割合は全体の約2割(19.1%)であり、昨年より約2ポイント増加しました。これは、令和4年3月に水際対策が緩和され、入国者が増加したことが大きな要因と考えられます。

一方で、約8割の事業所はまだ外国人を受入れていません。当該事業所の状況については後述のとおりです。

外国人介護スタッフを受入れている事業所にお聞きします。
受入れを行っていかがでしたか。

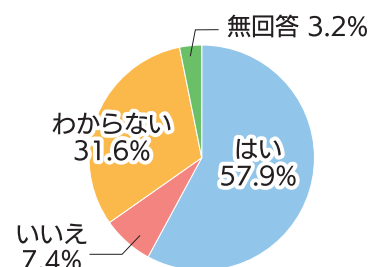
	令和4年度		令和3年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比
メリットがデメリットを上回った	52	55.3%	36	49.3%
デメリットがメリットを上回った	11	11.7%	3	4.1%
メリットもデメリットも半々である	28	29.8%	29	39.7%
わからない	2	2.1%	5	6.8%
無 回 答	1	1.0%	0	0.0%
総 計	94	100%	73	100%



「メリットがデメリットを上回る」と回答した事業所の割合は、前回よりも6.0ポイント増加したことに対し、「デメリットがメリットを上回る」は7.6ポイント増加しました。外国人介護スタッフの受入れにはメリットがある一方、受入れが長くなるにつれて様々な問題が生じていることも伺えます。

受入れを行っている外国人介護スタッフは、将来的に介護福祉士資格取得を希望していますか。

令和4年度	回答数	構成比
はい	55	57.9%
いいえ	7	7.4%
わからない	30	31.6%
無回答	3	3.2%
総計	95	100%



55事業所が「はい」と回答し、全体の約6割を占めています。外国人介護スタッフの大半は、介護福祉士の資格取得意思があると推測できます。

※今回調査からの設問となるため前回のデータなし

受入れて感じたメリット、またはデメリットの内容を具体的に教えてください。

- 人材不足の解消、人材の確保ができた。(多数回答)
 - 現場内の活性化や職員の意識向上に繋がった。
 - 今回、介護福祉士を取得し、施設で継続して働くことになった。
 - 実習生の大きな活躍が見られている。
 - 観察力があり利用者の変化によく気付く。丁寧なケアを行う。職員同士のチームワークを大切にする。
 - 真面目さ、勤勉、素直である面が日本人職員にも良い影響を与えた。
 - 利用者の笑顔が増えた。利用者が明るくなった。
 - 職場の雰囲気明るくなった。
- ※一部抜粋

※一部抜粋

- 監理団体・登録支援機関との契約料等の費用負担が大きい。
 - (在留資格によっては) 就労できるサービス・場所に規制があるため、人材確保の面ではまだ課題が残っている。
 - 人員配置上は必要な存在であるが給与が高く、育てるために必要な時間と労力が大きい。長く在籍してくれない。
 - 生活全般の支援が必要となるため、その支援を行う職員の確保が必要になる。
 - 言葉の伝達が難しく緊急時の対応に不安がある。

※一部抜粋

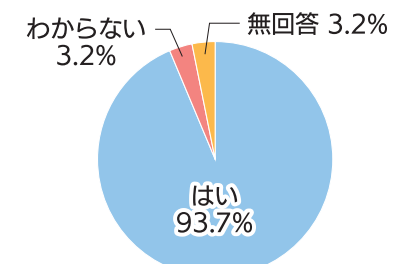
メリットの内容としては、前回と同様に人員確保、職場の活性化、日本人職員への良い影響などの回答がメインでしたが、なかには介護福祉士の資格取得や指導する立場になったなど、外国人介護スタッフが勤続年数の経過とともに活躍している回答が複数見受けられました。

一方、デメリットは指導・教育を行う職員の負担増大、受入れに関する費用、文化・生活習慣の相違による意思疎通の難しさなどが前回に続き挙がっています。

外国人介護スタッフについて将来的に介護福祉士資格を取得し、事業所に定着してもらいたいですか。

令和4年度	回答数	構成比
はい	89	93.7%
いいえ	0	0.0%
わからない	3	3.2%
無回答	3	3.2%
総計	95	100%

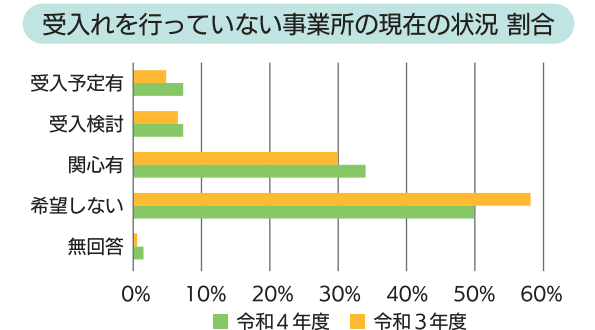
※今回調査からの
設問となるため
前回のデータなし



9割を超える事業所が、在籍中の外国人スタッフに資格を取得させたいと考えていることが分かりました。本会として次年度以降、ニーズ調査をしながら実務経験ルートからの資格取得に関する広報啓発、資格取得の意思がある外国人介護スタッフに対する各種研修会の実施等、必要な支援を行っていきたいと考えています。

受入れを行っていない事業所にお聞きします。現在の状況を教えてください。

	令和4年度		令和3年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比
受入予定(内定済、入職予定)である	29	7.3%	17	4.8%
受入を検討している	29	7.3%	23	6.6%
検討まではいかないが、受入に関心がある	135	34.0%	105	29.9%
受入を希望していない	198	49.9%	204	58.1%
無回答	6	1.5%	2	0.6%
総 計	397	100%	351	100%



「受入れ予定(内定済み・入職予定)である」が前回よりも2.5ポイント、「受入れを検討している」が0.7ポイント、「検討まではいかないが、受入れに関心がある」が4.1ポイントそれぞれ増加しました。

一方、「受入れを希望していない」割合は、依然として半数近くありますが、前回よりも8.2ポイント減少しました。これは、令和4年3月以降の入国制限緩和以降、外国人介護スタッフ受入れへの期待・関心が高まっていると推測されます。

受入を希望しない事業所にお聞きします。その理由を教えてください。

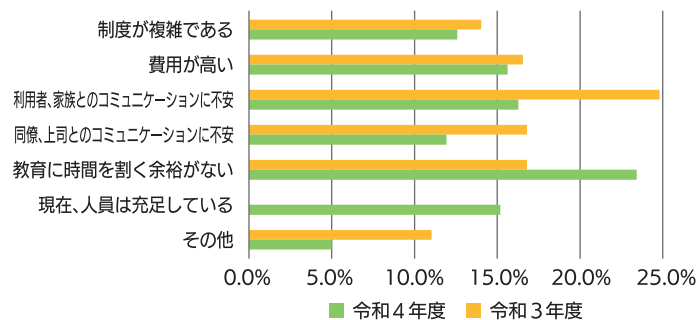
※複数回答可

	令和4年度		令和3年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比
受入に関する制度が複雑である	58	12.6%	56	14.0%
受入に必要な費用が高い	72	15.6%	66	16.5%
利用者やその家族とのコミュニケーションに不安を感じる	75	16.3%	99	24.8%
同僚、上司とのコミュニケーションに不安を感じる	55	11.9%	67	16.8%
外国人介護スタッフへの教育に必要な人員、時間等を割く余裕がない	108	23.4%	67	16.8%
現在、人員は充足している	70	15.2%	—	—
その他	23	5.0%	44	11.0%
総 計	461	100%	399	100%

※「現在、人員は充足している」の選択肢は今回から新設



受入を希望しない理由割合



- その他
- 当施設の地理的要因による。
 - 人員配置の資格要件を満たせるのであれば考える。
 - 過去に採用したが、生活習慣の違い等でトラブルになったことがある。
 - 日本国内で働けるのに働いていない日本人の雇用、介護職員の待遇改善がますます遠ざかる。
- ※一部抜粋

前回調査では、コミュニケーション面を不安視する回答が最も多くありましたが、今回は対「利用者・家族」が8.5ポイント、対「同僚・上司」が4.9ポイントそれぞれ減少しました。

一方、『外国人介護スタッフへの教育に必要な人員、時間等を割く余裕がない』が6.6ポイント増加しました。「人員は充足している」が全体の15.2%を占めていることを考慮すると、やはり地域やサービス種別によって人員の充足状況の差が大きいことが予測されます。

また、その他の欄にあるとおり、『過去に受入を行っていたが文化や生活習慣の違いに苦慮した』との回答が複数の事業所からありました。外国人介護人材の定着に対する支援が必要であると考えられます。

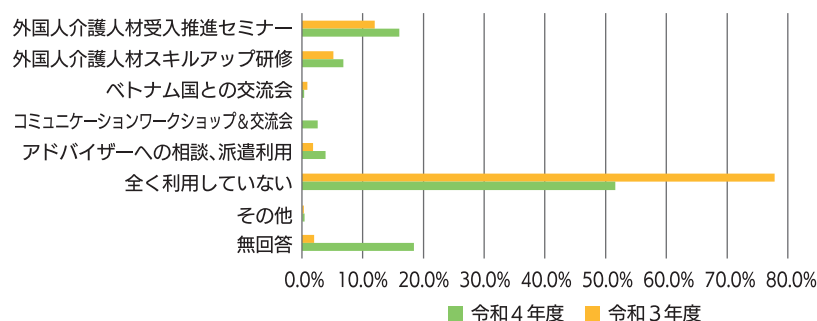
今年度実施事業について、利用及び協力したものがあれば教えてください。

(年度末までの予定を含む)※複数回答可

	令和4年度		令和3年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比
外国人介護人材受入推進セミナー(施設職員向け研修会)	87	16.0%	53	12.0%
外国人介護人材スキルアップ研修会(外国人スタッフ向け研修会)	37	6.8%	23	5.2%
ベトナム国からの県内介護事業所就労希望者との交流会	2	0.4%	4	0.9%
「介護の日本語」コミュニケーションワークショップ&交流会	21	2.6%	—	—
外国人介護人材・定着支援アドバイザーへの相談、派遣利用	17	3.9%	8	1.8%
全く利用していない	280	51.6%	344	77.8%
その他	2	0.4%	1	0.2%
無回答	100	18.4%	9	2.0%
総 計	546	100%	442	100%

※「介護の日本語」コミュニケーションワークショップ&交流会の選択肢は今回から新設

令和4年度実施事業利用・協力したものの割合



ほとんどの実施事業について、前回よりも回答数が増加していて、外国人介護人材に対する関心やニーズが高まっていることが伺えます。実際、各事業の参加者数は、昨年度よりも増加傾向にあります。

その一方で、スキルアップ研修が定員オーバーのため参加ができなかったとの回答もあり、なるべく多くの事業所が参加できるよう、可能な限り実施回数や定員を増やす等の対応を検討します。

事業全般についてのご意見(自由記述)

※一部抜粋

制度全般に対する意見

- 外国人介護スタッフの受入に関する制度をもっと簡単にしてほしい。
- 住宅型有料老人ホームでも外国人介護人材を確保できるよう働きかけてほしい。
- 現在市外から留学生を受け入れているが、市内に留学できる教育機関があると良い。(複数回答)
- 受入にあたって県の補助金の充実を望む。
- 外国人材の育成をする前に、自国民の人材を育成・確保できる制度を充実させるべき。

大分県及び大分県社会福祉協議会に対する意見

- 全国に先駆けての素晴らしい研修会や助成金等に感謝している。
- (外国人介護スタッフ、受入を行う事業所は)お互いに不安なこともあると思うので、このような事業があると助かる。
- 介護現場で働く外国人や、受入事業所のイメージアップになるようにメディアへの働きかけをお願いしたい。
- 外国人介護スタッフ定着のための取組みをしていただきたい。

既に受入を行っている事業所からの意見

- 紹介料や毎月の監理団体への固定費、外国人介護スタッフへの家賃等への支援で、かなりの費用がかかるので補助がないと苦しい。
- 良い仲介業者(監理団体・登録支援機関等)を紹介してほしい。対応及び費用面で差がある。
- コミュニケーションの取り方や、記録の読み書き等に不安な面がある。



受入予定又は受入検討中の事業所からの意見

- 今年、介護福祉士を目指す留学生を受け入れるので先進施設での受入状況を聞きたい。
- 受入れ後のサポート等、支援がほしい。

前回に続き、制度や補助金に関する要望が寄せられましたが、今回は既に受入を行っている事業所からも課題や要望が多数挙げられました。受入を行う事業所が増加するなか、いかに定着支援を図るための事業を展開していくかが、事業を担う立場として問われています。

回答率は前回からプラス6.2ポイント上昇し、35.7%でした。いただいたご意見をもとに、外国人スタッフ・日本人スタッフそれぞれに向けた研修の充実とともに、より一層定着支援の取組みを進めていきます。



繋げよう! ボランティア・NPO活動の輪 大分県ボランティア・NPO推進大会

日頃から支えあう元気な地域づくりを目指すため、1月19日、J:COMホルトホール大分会場とオンラインで、『第19回大分県ボランティア・NPO推進大会』を開催しました。

はじめに、大阪ボランティア協会事務局主幹の青山織衣氏から『地域福祉とボランティア～若者たちは今なにをを考える～』と題して基調講演がありました。“福祉に熱心な人”や“ボランティア”だけでは地域を守れない時代が到来しているなか、次世代の学びを支え、大人も学びながらやりがいを生むにはどうすればよいかなど、住民同士のつながりを深めていくための活動のヒントをお話いただきました。

休憩を挟み、県内で活動している企業・NPO法人・若者・地域の4団体が発表を行いました。①古着の寄付やゴミ拾いなどのソーシャルアクションの取組み、②地域に子どもの居場所を作りたいという想いから立ち上げたフリースクールのいま、③大学生がスタートさせた値札のないスーパーマーケットを目指す活動、④お弁当配達の新たな可能性に向け地元高校生とコラボした取組みなど、多様なボランティア活動を知ることができました。



講師の青山氏



活発な意見も

基調講演 参加者の声

- 高齢化と共にボランティアに若者がいなくて困っていました。若者の価値観やどのようなものを求めボランティアに参加しているのか知ることができました。
- 『ボランティアはもっと気軽にお試し感覚でOK』という言葉聞き、少し気が楽になりました。
- ボランティアスタッフを増やすことに、行き詰まりを感じていました。ボランティアは無理に押し付けるのではなく、一緒にやってみることが大切だと改めて感じました。
- 地域住民の方が安心して暮らせるまちをみんなで作っていききたいです。自分自身の興味の持てる簡単なボランティアから参加してみたいと思いました。

活動発表 参加者の声



発表のみなさん

- 人生を楽しんで活動している姿が羨ましく感じました。元気な地域を作っていくためにできることをこれから探していきたいです。
- 『全てのボランティアの活動は社会貢献につながっている』と改めて感じました。今やっている活動を継続していきたいと思いました。
- ボランティアをする目的が明確だからこそ、活動が楽しくできているのだと感じ感銘を受けました。
- 住民一人ひとりが元気な地域づくりを目指すために欠かすことができない存在だと気づきを与えていただきました。

- 活動発表の4団体
- 1 大分トリニータの取組み
株式会社大分フットボールクラブ 川端正倫 さん
 - 2 子どもの居場所づくり～みんな教室活動報告～
NPO法人みんなの教室 高部春菜 さん
 - 3 あまいろ商店の活動紹介
あまいろ商店 比嘉星怜 さん、平松かの さん
 - 4 みんなでつながる、みんなでたのしみ
高平おばちゃんズ 末綱智子 さん



ニータンも応援に



災害対応力の 向上を目指し

大分県災害ボランティア・福祉支援センター設立記念研修会

12月23日、大分県災害ボランティア・福祉支援センターの設置を記念して、災害支援に関する研修会を開催しました。当日は県内で大雪が降り開催が危ぶまれましたが、市町村社協の担当者や災害ボランティアネットワークの方々に多数で参加いただき、無事実施することができました。

研修会では『意味のある協働』をテーマに、オフィス園崎代表の園崎秀治氏にご講演いただきました。講演では、社協の視点から、災害時だからといって社協の使命と果たすべき本来の役割を見失わないこと、そのためには社協だけで手一杯にならないよう地域の受援力を高め、多くの方々と協働していくことが大切だと話されました。



講師の園崎氏

午後からは、4年度実際に災害が発生した由布市と静岡市清水区での災害への対応について実践報告が行われた後、担当者間で情報交換を行うなど充実した時間となりました。

来たるべき災害に備え、平時から顔の見える関係をつくり、災害対応力の向上を目指す研修は、今後も多くの企業・団体に参加を呼びかけていきます。



由布市災害VCの活動について報告

「介護」でのふれあい、友情、生きる素晴らしさを写真に

第11回 「介護って素晴らしい」フォトコンテスト

大分県知事賞
「桜が咲いたよ!!!」
特別養護老人ホーム光明園



大分県社協会長賞
「笑う門には「百」来る!」
特別養護老人ホーム鈴鳴荘



大分県老協会長賞
「俺の息子!」
四季の郷
デイサービスセンター



審査員長賞
「さくら道」
デイサービスセンター
むさし苑

9月16日から30日にかけて、県老人福祉施設協議会の会員施設の役職員や利用者、家族などを対象に、フォトコンテストの作品を募集しました。

このコンテストは、介護サービスの意義や介護の仕事の魅力をできるだけ多くの方に知ってもらうことを目的に、関係機関のご協力のもと平成24年度から継続的に開催しています。

審査の結果、本年度は応募総数130点の中から32点が入賞・入選作品に選ばれました。入賞・入選作品は、11月2日から3日まではイオンパークプレイス大分店に、また11月5日から11日までは県社会福祉介護研修センターに展示しました。

記念すべき第1回は、別府市の立命館アジア太平洋大学(APU)の学生が運営をしている子ども食堂「灯(ともしび)」です。

地域共生社会の実現に向け、多世代交流や住民相互の支え合い活動の促進、包括的支援体制を構築する市町村を支援する取組みを2021年度から大分大学と大分県が始めました。取り組みの一環として、大分大学福祉健康科学部の学生が多世代交流の場に実際に赴き、運営者や参加者と交流した様子を記事にしました。一部抜粋してお届けします。



地元大学の学生が主体となり自治会や地域の協力を得て運営

「灯」は、心がぽっと明るくなるような場所にしたい、学校という限られた場所ではスポットが当たらない人にも当たるような場所にしたい、子どもたちが自分の強みを生かしてみんなが明るくなれるようにと名付けられたそうです。会場は「亀川」の由来となった由緒ある場所で、生まれ育った人たちの幼少期の遊び場だそうです。

当日のスタッフは、コアメンバー4名、ボランティア3名と自治会長を含む8名で、参加者は5歳～小学2年生の5人、保護者が公民館まで送り迎えしていました。

地域の発展と子ども食堂

灯の活動の場を提供している中央二区自治会の会長、渡辺さんは、地元亀川の発展を目指す町おこし活動の中で、地元の大学生と一緒に「灯」を継続しています。その契機は公民館の隣にオープンした学生主催の「おしゃべり喫茶」で、1年ほど交流を深め、子ども食堂「灯」と一緒に運営することになりました。

子どもの確保については、「現在の子ども6、7人程度の利用から、常に10人前後が利用する状態にしたいと考えており、学生らと学校や家庭を回ってパンフレットを配布し宣伝をしています。子どもの数が少なくなっているなかで、常に情報を流すことは重要だと強調されていました。

遊びをつくりだす子どもたち

子どもたちと様々な遊びをすることで、大人になって忘れていた「子どもの視点」「楽しい、面白い」を再体験できました。カードゲームや縄跳び、お絵かきなどの様々な遊びをする中、一番長い時間遊んだ遊びは「遺跡発掘」でした。子ども食堂兼公民館の外の亀の甲公園には水が抜かれた池があり、底にはたくさんの小石が敷き詰められています。一人のこどもが、その中から珍しい模様の石碑のかけらのようなものを発見



すると、「こっちにまだあるかも」「こうやって見つけるよ」と探し方を教えあいながら、皆で石碑のかけらを探し続けました。

灯の一日

9:15	スタッフ集合、調理開始
9:30	運営メンバーのみミーティング (時間帯確認、注意時効、役割確認)
9:45	スタッフ全体(運営メンバー、お手伝いスタッフ)のミーティング
10:00	OPEN・受付・遊びの時間 おはようと言をかけ、公民館の中と亀の甲公園を行き来しながら思い思いに遊び始める。縄跳びでどちらが多く飛べるか競争、バトミントンを特別ルールで勝負、水を抜いた池の底で宝探しなど…自治会の「わたがし機」をお借りして、わたがしのおやつタイム。
12:00	お昼ご飯 おにぎり・照り焼きチキン・なすび・味噌汁・柿で秋を感じるメニュー 全員でテーブルを囲み楽しく話をしながら完食
12:40	遊びの時間 お絵描きや鬼ごっこ、午前中の続きで宝探しなど…
14:00	CLOSE 保護者のお迎え 「まだいたい」「まだ遊ぶ」とまだ帰りたくない様子
14:10	片づけ、清掃、スタッフ全員でふりかえり会

開かれた居場所で感じる、あたたかい気持ち

この活動に参加する前の「子ども食堂」のイメージは、よく写真などで掲載されている「学生が子どもと食べたり遊んだりして楽しく過ごす」様子でした。しかし、現地で体験したのは写真に写っていない人々の支えや交流でした。

会場に到着した時、活動に参加してみたいという気持ちとは裏腹に、既にでき上がっているコミュニティに後から参加することに苦手意識のある私は、緊張していました。しかし、実際に参加してみると、みなさんから細やかな声かけや笑顔をたくさんいただき、ほっとしました。

子ども食堂とは何か

ヒアリングを終えて、「子ども食堂」には様々な可能性のあることを改めて感じました。「灯」では、地域の発展を考える大人たちが、子どもや学生たち中心とした居場所づくりを支えていました。そこは様々な人が関わる「未完成の場」であり、多世代交流の場であり、居心地の良いサードプレイスになっていました。

新型コロナウイルスの流行により人との関わりが希薄化している現代の状況において、めったにない素晴らしい機会だと感じました。灯は「子ども食堂」の一つの形で、これからも変わっていくし、他にも色々な特徴をもった「子ども食堂」があるのだと思います。まずは「灯」の活動をより多くの方に知ってもらい、渡辺さんの思いがたくさんの学生に届くことに期待したいと思います。

あすびあおおいた(大分県身体障害者福祉センター)では、新年度も様々な教室や大会を準備しています。温水プール、体育室、卓球室なども是非、ご利用ください。

スポーツ・レクリエーション教室

- 親子スポーツ
- 親子水泳
- 卓球バレー
- スポンジテニス
- スポーツウエルネス吹矢
- ボッチャ
- フライングディスク
- ドローンサッカー
- eスポーツ(ビデオゲーム)
- 水泳パーソナルレッスン

趣味・文化教室

- 料理
- 絵画・造形
- 実用書道
- 絵手紙
- パソコン・スマホアドバイス
- おりがみ

機能訓練教室

- 水中ウォーキング
- 水中リフレッシュ
- いきいきリフレッシュ
- リハビリ運動
- 園芸療法

eスポーツ

(ビデオゲームによる対戦等)

ゲーム機を使って練習や対戦をします。経験者も未経験者もどなたでも楽しめるプログラムです。

スポンジテニス

スポンジボールを使って、ストロークやボレーの練習やダブルスのゲームにも挑戦。車いすの方も大歓迎です。

フライングディスク

標的の輪をめがけてディスクを投げる競技で、手軽に楽しめます。

大会・催しもの

各種大会も予定しています。日頃の練習の成果をお試ください。

将棋交流大会	令和5年 6月11日(日)	障がい者(児)・一般愛好者
囲碁交流大会	令和5年 7月 8日(土)	障がい者(児)・一般愛好者
サウンドテーブルテニス大会	令和5年 7月16日(日)	視覚障がい者・当該競技に理解のある方
卓球バレー大会	令和5年 7月30日(日)	県内のチーム
ふうせんバレーボール大会	令和5年 8月 6日(日)	県内のチーム
あすびあフェスタ2023	令和5年10月29日(日)	どなたでも参加できます
フライングディスク大会	令和5年11月12日(日)	障がい者(児)・一般愛好者
大分県社会福祉協議会会長杯卓球大会	令和5年12月17日(日)	障がい者(児)・一般愛好者
スポーツウエルネス吹矢大会	令和6年 3月17日(日)	障がい者(児)・一般愛好者
夢物語作品展		絵画・造形、書道、絵手紙教室受講者等

登録ボランティアを募集します

- あすびあおおいたでは教室・大会の運営をお手伝いいただく登録ボランティアを募集しています。
- お申し込みはどなたでもできますが、ボランティア活動保険(保険料:年間350円)に加入することが必要となります。
- ボランティア活動保険は、大分県ボランティア市民活動センター(大分県総合社会福祉会館2階)又はお住まいの市町村社会福祉協議会で手続きができます。

あすびあ倶楽部への参加をお待ちしています！

現在、多くの方が「切り絵」「折り紙」「将棋」「機織り」等の各倶楽部で、楽しい時間を過ごしています。興味、関心のある方の積極的な参加をお待ちしています。

詳しい日程などは、電話またはセンター窓口でお尋ねください。参加は自由です。是非、お気軽にお越しください。皆様の参加を職員一同、お待ちしております。

お気軽にお問い合わせください
TEL 097-558-4849 FAX 097-558-0316

つながる善意の輪

Instagram

Facebook

ホームページ



ホームページ、Facebook、Instagramにも掲載しています。ぜひご覧ください！

皆さまから本会『善意銀行』にいただいたご寄附を活用した取り組みなどを紹介します。あたたかい善意のご厚志をお寄せくださった皆様に、感謝の思いと頑張る皆さんの笑顔が届くよう、つながる善意の輪の一部をお届けします。

ままの輪

毎月テーマを決め、ママ会を行うことで子育て中のママたちの横のつながり、ママたちが子育てをみんなで楽しみ、時には悩みを共有しながら見守りつながっていく環境を作り、「子育ては1人で頑張らなくてもいいんだ！」と思ってもらえることを目的に活動しています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面でのママ会が厳しい状況なため、講師を依頼し、Zoomを利用した『オンラインママ会』を月に一度開催しています。

代表者 矢野妙子 さんからのメッセージ♪

善意銀行にご寄附をいただいた皆様、深く感謝申し上げます。いただいた助成金はオンラインママ会の運営に使わせていただきました。ママ達からは「いろいろなテーマで開催しており子育てのちょっとしたコツを学んでいます」「運営されている方たちはとても親切で、毎月の開催が本当に楽しみです」など多数嬉しい感想をいただいています。私たちがままの輪は、『子育て中のママ達をひとりにしない』これを理念に変わらず活動を続けています。未来の子どものためにその子どもたちを一生懸命育てているママたちのために、1人でも多くの方にままの輪の活動を知っていただけたら嬉しいです。



オンラインDEママ会

かみおがたサポートセンターふれあい

平成30年度に行った住民アンケートで「近くに食料品などを売っている店がない」「交通が不便」「草刈りができなくなった」などの意見が多数寄せられたことにより、住民同士が協力して住みよい地区をつくろうと発足したのがきっかけです。現在18名の活動者が、地区の方々の困りごとを解消するためにお手伝いをしています。

代表者 渡邊良治 さんからのメッセージ♪

善意銀行にご寄附をいただいた皆さま、ありがとうございました。上緒方地区は高齢化率約65%、一人暮らしも年々増え、家族も遠方に暮らしている地域です。生活の中の困りごと支援として、令和2年に生活支援ボランティアグループを立ち上げました。草刈りや剪定、お墓掃除などの依頼が多く、今回の助成金で作業機械を購入させていただきました。作業者も高齢者が多いですが、私たちの合い言葉「上緒方に生まれて良かった！上緒方に住んでいて良かった！上緒方がふるさとで良かった！みんながそう思う地域でありたいから」…そのために、少しでもお力添えできればと、今後も活動に取り組んでいます。この度は本当にありがとうございました。

「かみおがたサポートセンターふれあい」では、地区の住民がいつまでも元気に楽しく生活できる環境づくりの手助けを目指し、高齢者や一人暮らし世帯のちょっとした困りごとをサポート登録をした同じ地区の住民が有償でお手伝いする活動を行っています。



ジャガリコ農園の会

5月28日、地区の児童19名がサツマイモの苗を1人4本ずつ、高齢者を中心としたジャガリコ農園の会の会員など30名から指導を受けながら植えつけました。植えつけたサツマイモは、イノシシなどの被害もなく、順調に成長し、10月30日好天のもと、児童19人、会員の高齢者23名、その他協力者が参加する中収穫することができました。収穫したたくさんのサツマイモは、焼きいもやいも天にしてみんなでおいしく食べたそうです。この活動を通じて、子どもたちは、高齢者に話しかけることに抵抗がなくなり、またこれまで挨拶程度の関係であった人々も共通の話題ができ、以前より会話が弾むようになったということです。

代表 河野孝義さん・事務局 高志勇二郎さんからのメッセージ♪

助けてほしい、畑仕事がヒトツも進まない。昨日は5人が話しかけてきた。そのたびに一人20分はかかる。今日は2人。地区に住む子どもたちだ。「じいちゃん、この前のイモ天、おいしかった。家でも僕のお芋で作ったよ」。笑顔が弾む。20人の子どもと、地区の高齢者や保護者が育てたお芋のSPT(スイートポテト友)の会だ。みんなと畑で揚げた紅はるかのイモ天、最高だった。イモ天がこんなに美味しいかと思ったのは、じいちゃん・ばあちゃんたちかもしれないね。高い食用油やてんぷら粉、フライパンにテーブルなどなど、買うことができたものな。善意銀行の皆さんのおかげだ。(感謝)2

ジャガリコ農園の会は、農園活動を通じて、地域における多世代の交流を図り、特に子どもの健全育成や高齢者の生きがい創出・地域共生社会の推進を図ることを目的に令和元年より活動しています。



美味しいも天が
たくさんできました！

ひろがる善意の輪

昭和37年5月1日、全国で最初に誕生した本会の善意銀行は、各方面の深いご理解とご協力により支えられています。新型コロナウイルスの流行が終息を見えないなか、誰かを思いやる気持ちによって広がる善意の輪を一部ではありますがご紹介します。(敬称略)

アフラック大分県アソシエイツ会



介護施設へ消毒を
ご寄贈いただきました

株式会社 SYSKEN



子ども食堂へ
ご寄附をいただきました

富士フイルムBI大分株式会社



フードバンクへ
ご寄附をいただきました

株式会社豊和銀行 従業員組合



歳末助け合い運動へ
ご寄附をいただきました

聖公幼稚園



歳末助け合い運動へ
ご寄附をいただきました

大分県プレハブ建築連絡協議会



災害支援のため
ご寄附をいただきました

大分県信用保証協会



フードバンクへ食料を
ご寄贈いただきました

株式会社ジャパンセミコンダクター 大分事業所



フードバンクへ食料を
ご寄贈いただきました

第一生命保険株式会社 大分支社



フードバンクへ食料を
ご寄贈いただきました

寄附・寄贈いただいた皆様

令和4年10月～令和5年1月
※掲載辞退者及び上掲載分を除く (敬称略・五十音順)

- あいう笑がお ～おおいた～
- 旭化成メディカル MT 株式会社
- 安藤雄雄
- イオン九州株式会社
- うらら着物部
- OAB 大分朝日放送株式会社
- 大分銀行
- 大分県労働者福祉協議会
- 大分合同新聞社
- 大分信用金庫
- 大分トリニータ
- 株式会社アイビック
- 株式会社アシタエ
- 株式会社佐伯コミュニケーションズ
- 株式会社サンリブ
- 株式会社富士設計
- 株式会社ホームインブルーメントひろせ
- 株式会社山英食品
- カルゲン製薬株式会社
- 大分キャノンマテリアル株式会社
- 公益財団法人老人はげみの里見会
- コープおおいた
- 国分九州株式会社
- 佐藤昭浩
- ジャックス株式会社
- 白玉ふあ。ちゃん
- 関祐治
- 埼玉西武ライオンズ 源田壮亮
- ソニーセミコンダクタ マニファクチャリング株式会社
- 田村優三
- Dream 財団
- NOSAI おおいた
- 丸果大分大同青果株式会社
- マルハン高城店
- 宮崎喜恵
- 明治安田生命保険相互会社
- ゆめマート日田
- 有限会社さくら薬局
- 有限会社みどり調剤薬局
- 立正佼成会大分教会
- レイメイ藤井大分支店
- YKK AP 株式会社



いつも
ありがとうございます